



善頭エッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

129



文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

「近場で再会?!
食べ損ねた旅先の味」

前略、変わりはないか?
秋も深まって、旅に出るのにもってこいの季節だね。今年日本鉄道が開業して150年に当たる節目の年。先月10月には全国のJRの普通・快速列車が乗り放題になる特別切符「鉄道開業150年記念 秋の乗り放題パス」が発売されていたから、きっと多くの人が鉄道の旅を楽しんだらうね。
かくいう僕もそんな「鉄旅」を楽しんだ旅人の一人。もともと、僕が利用したのは「HOKKAIDO LOVE! 6日間周遊パス」という別の切符。値段こそ1万2千円と少し高くなるけれど、北海道内の在来線が6日間全て乗り放題になる切符なんだ。注目すべきは特急も乗り降り自由という点。4回までなら普通車の指定席も利用できる最強ぶりは、トランプ遊びの大富豪というところのジョーカー並み。カフェに寄りたいので途中下車、なんてこともOKなので、旅のバリエーションが大幅に増えるんだ。
さて、どこの街へと向おうか。ひとまず今回は帯広まで足を伸ばしてみた。南千歳駅で特急をおおぞらに乗り換えて、いざ東へ。海沿いを走り抜けてきた函館本線とは違って、石勝線は山間を走る路線。それまでの風景とは大きく違っていた。特にルート上に度々現れるトンネル状の巨大な囲いは、函館近郊では見たことがなかったな。後ろの席から「スノーシェルターだよ」と、子どもに説明するお父さんの声が聞こえてきたけど、これだけの数のシェルターが必要なくらい雪が深いのかと、思わずその光景を想像しちゃったよ。
帯広駅に到着後は駅レンタカーを借り、道の駅めぐりをしながらひたすら南下。ほどなく、ロケット開発で賑わう大樹町に入り、海辺に晩成温泉という名湯があるというのでひとつ風呂浴びることにした。「ヨド場」に入ってまず感じるのが、昔懐かしいヨーチンに似た香り。この温泉国内でも珍しい「ヨド場」で、全国から湯治に訪れる人も多いそうだよ。やや塩辛い茶褐色のお湯は、函館の谷地頭温泉に似ていたな。太平洋を眺めるロケーションよ、旅の疲れも一気に取れたよ。ひなびた旅館でもあればと車を走らせただけ、行けど進めど農場と牧場が出てくるのみ。帯広駅に着いてしまったので、札幌まで行くことにした。朝からかなりの距離を移動しているけど疲れ知らず。さすが、温泉パワーだね。
札幌駅ではJRタワーの展望室に行ってみた。実は今回の周遊バス、展望室も利用できるんだよ。ね、やっぱりお得でしょ。夜景を眺めながら一日の記憶を辿っていると、大事なことを思い出した。なんと、帯広で名物の豚丼を食べ損ねていたではないか。道の駅で特産品を食べた情報を教えてくれた。「今年オープンした海辺のカフェで、老舗の味を引き継いだ豚丼が食べられるらしいよ。なに!」
手書きの地図を頼りに訪れてみると、立待岬の手前でそれらしきお店が出てきた。店の名は「ベングズカフェ工房」。ハンドピツタの自家焙煎珈琲のお店らしいという情報と一致する。入店すると確かにメニューには「豚丼」の文字。迷わず頼んでみるが、果たしてそのお味は「うまい!」ポークソテーを乗せただけのよくなる豚丼とはコクも風味もまったく別もの。マスターの話では戦後間もなく上土幌町で営業を始めた金時食堂の豚丼を再現したものとのこと。豚丼の本場といわれる帯広市内からも食べに来るお客さんがいるほど評判だったそう、店をたたむ際、親交のあったマスターの友人のお母さんにレシピを伝授されたのだとか。30年以上、毎年友人の家を訪れる度に作ってもらっていたお母さんの味を、カフェのオープンを機に伝授されたんだ。70年以上前と同じ製法で、化学調味料は一切不使用。タレの仕込みは九二日かかるそうだよ。作れる数に限りがあるそうだから、どうしても食べたい時には予約してから行くといいね。え、連れて行ってくれないのかって? もちろん連れて行くけど、その前に切符の有効期限がまだ残っているの、北の方にも行ってくるよ。美味しいものを見つけたら連絡するね。それじゃあまた。

